

斜視角 30Δ 以上の間欠性外斜視に視能訓練 を行い眼位が良好になった一例

国際医療福祉大学熱海病院
視能訓練士 三浦一真

緒言

間欠性外斜視は、斜位の状態を保つことが可能で、両眼視機能が良好であることが多い。治療方法は、斜視角 25Δ 未満は視能訓練をおこない、 25Δ 以上であれば手術の適応と言われている。

今回、斜視角 30Δ 以上の症例に視能訓練を施行し、良好な結果を得られたので報告する。

症例

訓練開始前

- ・8歳3か月 女の子
- ・視力
 - 右眼: 1.5 (n.c.)
 - 左眼: 1.5 (n.c.)
- ・近見立体視: 120" 1/2 (TNO)
- ・遠見立体視: 測定不可

- ・輻湊近点 : 10cm以上
- ・融像幅 : $-4^{\circ} \sim +3^{\circ}$
- ・交代プリズム遮蔽試験 (A.P.C.T.) (裸眼)

遠見斜視角 : $30\Delta XT$ 、 $8\Delta RHT$

近見斜視角 : $35\Delta XT'$ 、 $3\Delta RHT'$

複視なし

視能訓練内容

訓練1回目、2回目

抑制除去訓練、生理的複視認知訓練

訓練3回目～

輻湊幅増強訓練

* 夏休み期間は週1回来院

抑制除去訓練: Flashing method (暗室→明室)

生理的複視認知訓練: 3点カード、Framing card、two pencil

輻湊幅増強訓練: prism convergence

家庭訓練: 3点カード、Jumping convergence

融像幅增強訓練 (prism convergence)

	視標距離	
	30cm	5m
1回目	60△	測定不可
2回目	60△	測定不可
3回目	90△	測定不可
4回目	90△	28△
5回目	90△	20~40△
6回目	90△	36△
7回目	80△	40△
8回目	90△	75△
9回目		65△

結果

訓練終了時

- 近見立体視: 120" (TNO)
- 遠見立体視: +
- 輻湊近点: 2cm
- 融像幅: $-4^{\circ} \sim +12^{\circ}$
- A.P.C.T. (裸眼)

遠見斜視角: $30\Delta X(T)$ 、 $8\Delta RH(T)$

近見斜視角: $30\Delta X(T)'$ 、 $3\Delta RH(T)'$

斜位時 $>$ 斜視時

考按

- ・8歳のためコンプライアンスが良く、家庭での訓練が可能であった
- ・夏休み期間を利用し、週1回の来院が可能であった

結語

斜視角が 30° 以上の症例であっても積極的な訓練を行うことで良好な結果が得られる可能性がある。